

○事業所名	インクルー常陸太田教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 24日 ~		2026年 2月 3日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 24日 ~		2026年 2月 3日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎月実施される職員向けの運動研修を受講することで、利用児に期待出来る効果や発達に合わせた難易度の調整、介助の仕方や応用のポイント等、学ぶことが出来る為、より安全に運動が提供され、翌月への運動へ繋がられる。	こどもの発達段階や特性に応じて運動内容を調整し、楽しみながら身体機能や社会性の向上につながる活動を取り入れている。	職員研修や情報共有を行い、運動プログラムの内容や指導法の充実を図っていく。
2	のびのびと運動できるスペースと、個別課題のスペースを分けて活動することにより、子ども達が落ち着いて生活できるよう配慮している。	活動スペースと落ち着いて過ごすスペースを分けるなど、こどもが安心して活動できる環境づくりを行っている。	こどもの特性に応じた環境設定を見直し、より分かりやすい環境づくりを進めていく。
3	集団を意識した支援の充実と汎化への取り組み。	小集団活動を取り入れ、順番やルールなど社会性の基礎を育む支援を行っている。	保育所や幼稚園、家庭との連携、情報共有を行い、生活の場での汎化につながる支援を行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流機会が十分だとは言えない。	地域資源の情報収集不足。	地域資源の情報収集を行い、交流の機会を検討していく。
2	保護者同士が交流できる機会が十分とは言えない。	保護者の就労状況によって機会の設定が難しい面があるため。	ニーズを把握しながら、交流の機会について検討していく。
3	災害訓練等の実施状況について保護者への周知が十分だとは言えない。	実際に実施した内容について、参加したこどもの家庭のみへの周知となっていたため。	通信やアプリ等を活用しながら、全家庭に実施状況が伝わるよう、周知を図っていく。

事業所における自己評価総括表_児童発達支援

○事業所名	インクルー常陸太田教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 14日		2026年 2月 3日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 7名
○従業者評価実施期間	2026年 3月 17日		2026年 3月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎月実施される職員向けの運動研修を受講することで、利用児に期待出来る効果や発達に合わせた難易度の調整、介助の仕方や応用のポイント等、学ぶことが出来る為、より安全に運動が提供され、翌月への運動へ繋げられる。	遊びを取り入れた運動活動を行い、身体機能や基本動作の発達を促す支援を行っている。	職員研修や情報共有を行い、運動プログラムの内容や指導法の充実を図っていく。
2	のびのびと運動できるスペースと、療育(座学)のスペースを分けて活動することにより、子ども達が落ち着いて生活できるよう配慮している。また、個別課題の時間は児発と放デイの利用児を分けて活動している。	運動スペースと個別課題とのスペースを分けるなど、子どもが安心して活動できる環境作りを行っている。	こどもの特性に応じた環境設定を見直し、より分かりやすい環境づくりを進めていく。
3	集団を意識した支援の充実と汎化への取り組み。	小集団活動を取り入れ、順番やルールなど社会性の基礎を育む支援を行っている。	保育所や幼稚園、家庭との連携、情報共有を行い、生活の場での汎化につながる支援を行っている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流機会が十分だとは言えない。	地域資源の情報収集不足。	地域資源の情報収集を行い、交流の機会を検討していく。
2	保護者同士が交流できる機会が十分とは言えない。	保護者の就労状況によって機会の設定が難しい面があるため。	ニーズを把握しながら、交流の機会について検討していく。
3	関係機関との連携の機会が十分とは言えない。	各施設との調整が難しい面があるため。	情報共有の場、機会を積極的に設けていく。

事業所における自己評価総括表_保育所等訪問支援

○事業所名				
○保護者評価実施期間	2026年 1月 24日		～	2026年 2月 3日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○従業者評価実施期間	2026年 3月13日		～	2026 3月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○訪問先施設評価実施期間	2026年 1月 24日		～	2026年 3月 13日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	4	(回答数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 13日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの特性や状況を多面的に捉えた理解	訪問時の行動観察に加え、学校での様子や保護者からの情報を丁寧に収集・整理し、こどもの特性や困り感を多角的に把握している。	発達に応じた視点の整理と職員間での共有を進め、より適切で根拠のある支援につなげていく。
2	保護者と学校の間をつなぐ連携支援	保護者と学校それぞれの立場や思いを整理し双方に分かりやすく伝えることで、相互理解と協力体制の構築につなげている。	連携の頻度や内容を見直し、より継続的で信頼関係の深まる支援体制を構築していく。
3	支援内容を言語化し関係機関で共有する取り組み	支援の意図や具体的な関わり方を言語化し、事業所・家庭・学校で共通理解が図れるよう工夫している。	具体的な関わりの提示を増やし、日常生活の中で実践しやすい支援の共有を強化していく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	関係機関との連携が継続的に行いにくいことがある	訪問機会や時間に限りがあり、継続的な関わりが難しい場合がある	連絡手段や情報共有の方法を工夫し、継続的な関係づくりを図っていく
2	支援内容が日常生活場面に十分に広がらないことがある	支援の実施場面が限定され、家庭や園での実践につながりにくい	家庭や園で取り入れやすい具体的な関わり方を提案し、支援の定着を図っていく
3			